



未来へつなぐ

Vol.

177



文／本間 吾里砂



新千歳空港アクセス輸送の強化

物価高騰への対応などを目的に、二〇二五年四月から「運賃改定」徹底した経費削減と経営努力により、北海道の基幹的輸送機関としての役割を強化

**来年四月からの
運賃改定を認可申請**

JR北海道は、六月二十八日に来年四月からの運賃改定について、国土交通大臣に認可申請を行いました。昨今、道内の人口減少や新型コロナウイルスの流行に伴うリモート会議の普及など、新たな生活様式が定着したことで、鉄道運輸収入が減少したり、鉄道の修繕・設備投資に関わる資材が高騰するなど、経営環境はより厳しさを増しています。また、激化する人材確保

競争に向け、待遇改善も欠かせません。今回の運賃改定は、物価上昇への対応とともに、効率的な運営と利用者サービスの向上に尽力し、北海道における基幹的輸送機関としての役割を維持・遂行するためのもので、お客様に一部費用の負担をお願いする形となりました。

運賃改定後、初乗り（三キロ以内）は現在の二〇〇円が二〇円となります。普通運賃については平均で六・六％の改定となり、四六キロは七・一％、十一〜十五キロ間はこれまでより二〇円、札幌・銭函間など十六〜二〇キロ間は三〇円の改定となる予定です。一方、定期券は他の交通機関と比べ、高い割引率となっていました。が、通勤定期券の割引率を六・八％縮小することなどにより、通勤・通学全体で平均十八・九％の改定率としました。



登別駅イメージ図

より効率的な運営と 利用者サービスを強化

二〇二四年三月十五日に「事業の適切かつ健全な運営に関する監督命令」を国土交通省から受理したこともあり、徹底した経費削減と最大限の経営努力が求められる

中、今後は次のような取り組みを行う計画です。

まず経営の根幹となる「安全対策」は、老朽化した設備や車両の更新・修繕等を継続的に実施します。続いて、業務の効率化・省力化システム化を推進。利用者サービスについても、札幌・新千歳空港間を結ぶ快速エアポートの車両更新を進め、定員増加により混雑緩和を図ります。また、発寒中央駅と登別駅のバリアフリー化を進めるとともに、地域の拠点として駅舎の改修や駅前広場、自由通路の整備などに力を注ぎます。そのほか、通学定期券購入時の資格確認の簡略化、精神障害者割引制度の新規導入、野生動物の線路内への侵入防止対策など、各種取り組みを通して、北海道を代表する公共交通機関としての役割を果たして行きます。